



QRコードを
読み取ってぜひ、
友だち登録を!

謹んで新年のごあいさつを申し上げます

能登半島地震によりなくなられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます



中央執行委員長
佐藤 仁泰

明けましておめでとうございます。
皆さんとご家族にとって幸多き一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。
昨年は、日野自動車が大きな変革の中にある中で、お客様・そして日野グループの仲間のためにご尽力いただき、大変ありがとうございました。
本年、労働組合では、私たちが中心・私が主役となる職場の実現を目指して、新たな取り組みを始めてまいります。職場総会・職場懇談会の活性化はもちろんのこと、「私の職場を私が良くする仕掛け」も用意していきますので、組合員の皆さんも各職場・各層での活動に積極的なご参画とご協力をあらためてお願いします。

「自動車産業の信頼回復と政治改革を目指して」

年始から大きな災害や事故が続いております。被災地域には、働く仲間やそのご家族も多数いらっしゃるかと思います。一日も早い復旧・復興、そして安心して生活を取り戻されますようお祈り申し上げます。
さて、昨年は各工場でも市報報告会を開催し、対面での意見交換に勝るものはないと改めて実感しています。本年も皆さんとのつながりをさらに強め、「支え合い・助け合い」の精神のもと、今後想定される大規模地震から命・暮らしを守る政策と身近な困りごとの解決に全力で取り組んでまいります。



日野市議会議員
中島 よしき

労使対話会開催

2023年12月6日(水)開催

カーボンニュートラルに向けた日野の取り組みを共有する!

上期決算発表時に公表した「カーボンニュートラルに向けた日野の取り組み」をテーマに労使対話会を開催しました。詳細は労使対話会報告書をご確認ください。

カーボンニュートラルに向けた日野の取り組みについて

<カーボンニュートラルに対する日野の進め方のポイント>

- ・上期決算公表時(10月27日)に「カーボンニュートラルに向けた日野の取り組みについて」を公表
- ・社会に貢献すべき課題は「カーボンニュートラル、省人化、安心・安全」であり、カーボンニュートラルに関しての戦術ポイントは3つある

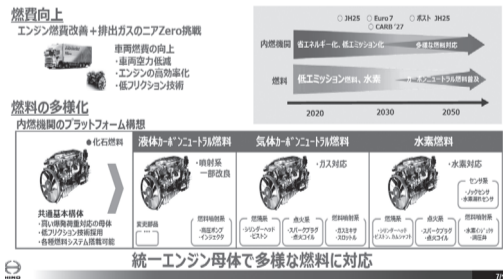


CNに向けた日野の取り組みを説明する豊島CPO

(1) 燃費向上と燃料の多様化

内燃機関が無くなることはなく、エンジンを含めた車両全体の燃費を向上する

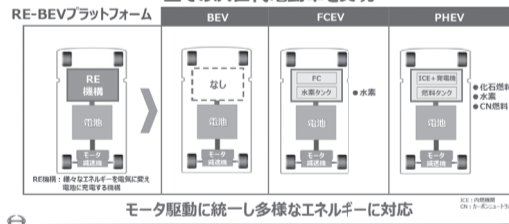
マルチパスウェイの効率的な実現のために(内燃機関車) 既存技術の弛まぬ改善による **燃費向上と燃料の多様化** を推進



(2) サステナブルな電動化を進める

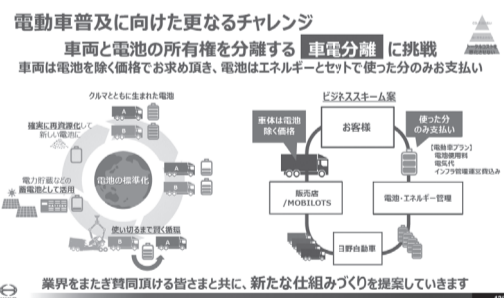
価格、充電時間、航続距離、稼働最大化など商用車特有の課題に対応するべく、様々なエネルギーを電気に変え電池に充電する「レンジエクステンダープラットフォーム」構想の実現

マルチパスウェイの効率的な実現のために(電動車) レンジエクステンダー(RE-)BEVプラットフォーム構想の元に全ての次世代電動車を実現



(3) 「車電分離」と「電池パックの標準化」

車両と電池の所有権を分離。車両は電池を除く価格でお客様に購入いただき、電池はエネルギーとセットで使った分のみお支払いいただく



カーボンニュートラルへの取り組みに対する質疑・要請



組合	会社
<p>内燃機関を搭載した車両と燃料電池などモーター等の組み合わせについて、具体的な地域・用途による棲み分けや、レンジエクステンダーがあることの利点を改めて教えていただきたい</p> <p>電動化にシフトし、つくる物が変化の中で、ものづくりがどう変わり、そのための人材育成や人材配置をどうしていくかが次なる議論になる。製品の変化を受けた生産技術の変化の有無も含め、今後も継続的な議論をお願いしたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本はモーター駆動で電池だけ載せる電気自動車(EV)は航続距離が短くお客様の使用には不便が生じる。電池を複数組み合わせて発電しながら走行することで走行距離が延ばせ、「車が止まらない」「仕事が止まらない」ことを担保する意味での安心装備として使っていただける ・電池を多く積むと長距離走行は可能だが、車両価格の高騰や充電時間の長期化に繋がる。トータルサポートの視点で、お客様のビジネスに合わせた提案ができる会社になっていかなければいけない ・カーボンニュートラルへの対策として、2050年にCO₂を90%削減する方向で事業戦略を考えているが、いつどの領域でバッテリー式電気自動車(BEV)やレンジエクステンダーを投入していくか今後考えていく ・内燃機関の燃費改善の取り組みや、CN燃料での内燃機関開発を並行して進めないといけない ・「街中ではエンジンを止める」「スクールゾーンでは電気だけで走る」などより人・社会にやさしいものになる。また、災害時にはRE燃料を電気に変換することで事業継続ができるなどより社会に貢献できる ・工場も開発と一緒に電動化プロジェクトに参画をし、日野が何をやっていくかも把握していく中で、競争できる技術力を身につけていくために、今後どのような技術を習得していく必要があるか、どんなスキルを持った人材を育てていくかを工場と開発と一緒に考えていく ・生産現場ではエンジン車と電動車の混流生産になり、工程が大きく変わる。また、高圧作業になるため、高圧作業者が各職場で確実に必要になる ・これらの変化により生産技術と人材育成の観点からも変化が生じることになるので、製造も含めた大部屋で準備をしていく